

平成29年度鳴門市スポーツ推進審議会

【会議録概要】

日 時 平成30年3月20日(月)、午後2時～午後3時50分

場 所 消防本部3階会議室

議 題 鳴門市スポーツ推進計画実施状況について

出席者 20名

①委員数13名

卯木委員、大岩委員、八田委員、横田委員、田口委員、中田委員、棟田委員、
神田委員、堀江委員、松井委員、矢野委員、山本委員、米田委員

②教育委員会7名

事務局（安田教育長、大林教育次長、笠原生涯学習人権課長、
小野木体育振興室長、橋本係長、三木主任、坂尾主事）

傍聴者 1名

会議内容

1. 事務局より配付資料の確認、審議会の趣旨説明
2. 教育長あいさつ
3. 委員・事務局の自己紹介
4. 会長及び副会長の選出
委員より、事務局（案）の声があり、会長に松井委員、副会長に米田委員を推薦し、各委員の承認を得る。
5. 審議会の進め方について
会議は原則公開することを確認。
会議録は、各委員に内容確認後、市公式ウェブサイトへ掲載することを確認。
会議録における各委員の発言者名の取扱については、A委員、B委員などの記号表示とすることを確認。
6. 鳴門市スポーツ推進計画実施状況について
→以下のとおり
7. その他
→以下のとおり

松井会長)

それでは議題の鳴門市スポーツ推進計画実施状況について事務局から御説明をお願いします。

事務局)

本日は進行上、委員の皆様へは、先に資料を送付させていただき、スポーツ推進計画実施状況を

ご確認いただいておりますが、主な実施事業を抜粋して、ご説明させていただきます。鳴門市スポーツ推進計画実施状況1ページをご覧ください。国スポーツ基本計画、県スポーツ推進計画の策定後、平成27年2月に策定しました鳴門市スポーツ推進計画は、基本理念を「スポーツうずまくまちなると」とし、基本目標を①こども・青少年の体育・スポーツ機会の充実②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進③市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備とし、様々な事業を実施して参りましたが、2017年に検証、3年後の2020年が計画の見直しとなっています。本日はご意見をいただき今後の取り組みの参考にさせていただきたいと存じます。

次に、3ページから4ページに年度別の実施状況、5ページから22ページに体系別に、基本目標をお示しし、施策ごとの実施状況を記載していますが、集約いたしまして、3ページ4ページでご説明させていただきます。

まず、27年度より、鳴門市スポーツアドバイザー制度を創設し、鳴門市出身で元プロ野球選手の里崎智也氏に鳴門市スポーツアドバイザーに、ご就任いただきました。スポーツアドバイザーは、スポーツに関する指導、講演等を通じて、スポーツの価値や意義、役割等の重要性を伝えていただき、市民の方々のスポーツ技術の向上、心身の健康保持増進等を図ることとしています。27年度は、チャレンジデーにおいて、スポーツ少年団を対象とした野球教室を開催、28年度は主に中学生を対象とし講演会を開催、また今年4日には主に高校生を対象とした講演会を開催し、100名を超える方々に参加していただきました。

また、生涯スポーツ推進事業補助金制度を創設し、市民のスポーツニーズに対応した多種目のスポーツを提供し、日頃スポーツに接する機会の少ない子どもから高齢者までのスポーツ活動の機会の充実を図り、運動の習慣づけを行っていただくことを目的に、幼児・小学生を対象としたダンスや、障がい者・高齢者・未就学児を対象に市内各地で、他種目のプログラムをNICEや鳴門総合型スポーツクラブを中心に実施していただいております。また、新たに、スポーツ推進にチャレンジする団体を支援し、スポーツを支える活動に参画することができる機会を確保することとしましたところ、カローリングや太極拳を通して多世代、地域での交流を目指す事業も実施していただきました。

次に、単年度事業といたしましては、鳴門市体力測定会を平成27年10月11日に鳴門・大塚スポーツパーク第2陸上競技場にて、鳴門市スポーツ推進委員が主となり実施しました。内容は、6歳～64歳、65歳～79歳で実施項目を分け、握力、反復横跳び、10m障害物歩行など、体力測定をおこない、小学生を中心に延べ100人が参加しました。

また、鳴門市子どもスポーツフェスティバルを平成27年12月12日(土)に徳島インディゴソックス協力のもと、鳴門市総合運動場において実施しました。スポーツ少年団団員、普段スポーツをしない子、保護者も含め、50名程度により野球体験をおこないました。同時に「幼少期からのケガの予防、練習・試合後のケアについて」と題して、トレーナーによる指導者向けの講習会も行いました。

また、スポーツ傷害対応・対策講習会を平成28年7月31日(日)に東京より(株)CSPR講師を招いて行いました。ケガをしたときの対応方法や判断基準、患部の状況、アイシングの必要性、手法についての講習会、又参加者にアイシングの体験をしてもらいました。スポーツ少年団や体育協会の指導者も含め60名以上の参加者により実施しました。

また、平成29年7月30日にスポーツ推進委員の徳島県大会を鳴門市で開催し、鳴門市スポー

ツ推進委員が主になりニュースポーツの体験や、障がい者バスケットボールの体験会も実施されました。

また、夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を平成29年8月24日に鳴門市市制施行70周年記念事業として実施しました。早朝より鳴門ウチノ海総合公園へ、市内外から老若男女1,222人が参加する盛大なイベントとなりました。鳴門市体育協会加盟団体や、スポーツ少年団、鳴門西地区の自治振興会をはじめ、市内の自治振興会、老人会、婦人会等様々な団体へ周知を行うことで、数多くの方々が、ラジオ体操に親しむ機会の提供が出来ました。

最後に、通常事業でございますが、

まず、笹川スポーツ団体主催のチャレンジデーに毎年5月の最終水曜日に参加しております。別紙表⑤に27年度からの参加率を記載していますが、市内の各種団体等で構成した実行委員会を組織し、総合型地域スポーツクラブを中心に、鳴門市体育協会加盟団体、鳴門市スポーツ推進委員、その他団体により通年40程度のイベントを実施しています。また、プロスポーツの徳島ヴォルティスや徳島インディゴソックスにもご協力いただき、子どもに向けた教室等開催していただいております。チャレンジデーは、スポーツを始めるきっかけづくりの日として、参加していただけるよう、市内の学校、企業等の事業所、自治振興会・老人会・婦人会等各種団体、市の広報や量販店での呼びかけをするなど、様々な方法で周知を行うことで、市民の皆様に浸透し、参加率もあがってきました。今年5月30日(水)にも、第九アジア初演100周年記念事業、又コウノトリつながりとし、兵庫県豊岡市と対戦することとなりました。イベントについても例年並みに実施する予定として準備を進めています。

次に、鳴門市スポーツ少年団駅伝競走大会はスポーツ少年団単位団が、年に1度鳴門・大塚スポーツパークで、男子7名、女子5名でチームを作り、タスキをつなぐ駅伝競走大会を実施していますが、この大会をとおして、各団のチームワークを高めたり、他種目競技の各団が触れあう良い機会となっております。多いところで2チームを結成し、毎回16チーム、130名ほどの参加となっています。今年は、IAU24時間走世界選手権大会優勝の石川佳彦さんをゲストにお迎えし、小学生と一緒に走っていただきました。

次に、鳴門クロスカントリー大会は、市内外の小学校3年から一般まで、16部門からなる大会で、70代の方も参加するなど、多世代の方々が出場できる親しみやすい大会となっております。今年は、コースの変更、部門の時間の変更をおこない、一般の参加者が増え、盛大に実施していただきました。

その他の実施につきましては、徳島駅伝への参加、各種支援といたしましては、スポーツ関連組織への補助金を支出、施設無料又優先貸出し等、全国大会等参加者への激励金の支給。教育委員会、体育協会等の表彰、指導者向け講習会の開催。今後の市内体育施設についての検討を行っています。

主な実施事業についてのご説明は以上でございます。

松井会長)

はい、ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見・ご質問ありましたらなんですが、実施状況について全体的なところでご意見いただいて、個別の施策の所はページをおって、個別に質問してもらえたらと思うんですが、それでよろしいでしょうか。

では、全体的なところでご意見ご質問いただけたら、いかがでしょうか。

私の方からちょっと1つ質問あるのですが、実施状況を検証していく訳なんですが、スポーツ推

進計画では今年度中間の検証の時期なんですけど、今やっているのは検証作業なのか、それとも別のところで検証作業をやって、その検証に対してこの審議会で意見をもらう段階なのか、どちらなんだろう。

事務局)

検証の作業です。

松井会長)

検証の作業なんですね。でしたら目標に対していろんな個々でテーマがありますので、それに対して中間評価、計画以上に出来ているとか、計画通りに出来ている、計画より遅れている、出来てない、だいたいこの4段階くらいで、一つ一つの項目を評価するというのが検証作業なんですけど、今回それしなくてよろしいんでしょうか。

事務局)

32年度の見直しの時に、アンケートを実施しまして評価したいと考えております。

松井会長)

見直すためには現状を評価しないと見直せないと思うんですが、その評価するっていうことをしなくていいんですか。

事務局)

今回のご意見をもって評価としたい。

32年度の数値目標が計画にあがっていますので、それが達成できているかは、見直しの前にアンケートをとって集計・比較しなくてはと思っていますが、個々の中身の中で3年間取組をしたことをお示ししているのでご意見いただけたらと思います。

松井会長)

私仕事柄、毎年自己評価を書くことでその習性がついているので、目標に対してちゃんと、一個一個のことについて評価した方が、今後の改善のためには、良い材料になると思いますが、今急に言いましたので、そういうことをするためには事務的な手続きもいりますし、急にやれというのは難しいでしょうけど、今後は是非そういう進め方を取り入れて欲しいというのが私の提案ですが皆さんいかがですか。

E 委員)

最初にスポーツ推進計画立てたときに、6年間の計画の中で3年後に検証をしてみても意見を出させてもらったが、実施状況を説明してもらったが、とてもよくやってくれているという充実感を持ちました。

松井会長)

そのよくやってくれているというのをデータで示して。

E 委員)

確かに、会長のおっしゃっていることは良くわかります。

松井会長)

今回、一つ一つの項目を評価というのではなく、実施状況の全体や個別について、文書的に評価することになるんですが。

事務局)

今回文書的な形になって申し訳ありませんが、計画の中に平成32年度の数値目標があって、総

合型スポーツクラブの認知度とかはアンケートをとってみないと分からないが、数値で示せるところがあれば、会長がおっしゃったように、中間の検証になるので用意しておかないといけないのですが、個別では表の中にあるのですが、並べることが出来ておりません。申し訳ありません。

松井会長)

今回については、実施状況の文書に対しての説明を受けて意見を言うと。それが検証作業になるということで。皆さんよろしいですね。

それでは話を元に戻しまして、全体的なところで何かあれば。

H 委員)

3年前から状況が変化しておりまして、今後オリンピックやワールドマスターズゲーム、ラグビーワールドカップもあるんですが、今の計画だと鳴門市内だけのスポーツ推進計画というイメージがしてありまして、県外からの方たちのスポーツ活動もスポーツ推進計画に還元してもらいたいなど、県外から来た者としては求めます。スポーツをやっている人は増えてると思うが、NARUTO総合型の方とかと話していると、場所が無いなど。私たちにはどうしようもない。場所が無いと県外から来てもらえない。フィールドの開拓を含むような計画としてもらえるとうれしいかなと思います。

松井会長)

具体的には、大手海岸でサーフィンやっている人とかを鳴門のスポーツ人口に含めて考えていくと。スポーツ行事のリストに、ジングルベルマラソン、リレーマラソンが入ってないですが。

事務局)

現在のところ体育振興室では所管しておりませんので。実施状況には掲載しておりません。

松井会長)

教育委員会は後援になっていきますので入れてもいいんじゃないかと思います。

他に全体的なところいかがでしょうか。

では、次に、5ページから体系別実施状況、9ページ上部までの施策(1)子ども・青少年のスポーツ活動の推進について、ご意見・ご質問ありますか。

I 委員)

スポーツ少年団駅伝についてなんですが、男子のチームは同じ所が2つ出たりとかしてるんですが、女子のチームはどんどん減って、指導者のこともあるとは思いますが、今の状態では、部員が学年がそろわない。この駅伝大会は6年が中心になってする。女子は5区間あるから5人、6年だけで5人そろえるのは難しい、低学年も含めて出来るようにしたら。今はスポーツ少年団がどんどん無くなってきている時代。女子は今、2, 3チームの参加。昔は15チームくらい出ていた。時代にあったもので作っていつてもらえたら。

C 委員)

小学校の子どもたちを見ていますと、子どもの数は減っていますし、いろいろな事情でスポーツ少年団が解散したというのがあります。スポーツをしたい子は多いです。市外の団体に行って練習する子もいます。するべきクラブ・組織が無いと。既にチームがカチッとあると、そこに入れてもらうのは人間関係とかで難しいこともあるようです。市外に行っている子もいるという現状があります。

E 委員)

表、見させてもらったんですが、スポーツ少年団の駅伝大会参加団数も少年団の数も横ばい。スポーツ少年団の半分の団しか大会に出てないということですよ。28年度は35団体のうち17団体、29年度は34団体のうち15団体と。

I 委員)

最近、団数が変わってないんですが、私は、6年生主体でされたら、そろわないと出にくい。低学年が6年生と一緒に走るんだから。その辺を考えて、低学年の区間を設けるとか、考えてくれたらもっと増えると思う。徳島県の女子のバレーチームも昔は130チームくらいあったけど今は50チームくらい、数は減っている。少年団の駅伝も、6年生と低学年と一緒に走ることになったら、出てもしょうが無いとやめてしまう。1～3年生の区間を設けるとか。出たい子もいるが全員は出れてない。

米田副会長)

他の大会に出てるから、駅伝には出ないというところもある。

I 委員)

バレーのチームでは、私が話したようなことがある。色々種目によって違うかもしれないが。個々に集まって連盟は作っているが、スポーツ少年団の集まりがないから、スポーツ少年団の役員として県に行くだけで、鳴門市での集まりがない。色々な種目のスポーツ少年団で集まって話し合える機会が出来たら、違ってくるのでは。

H 委員)

女子サッカーは中高生の女子に指導補助とかに来てもらっているが。種目主義。小さいときは色々な種目をさせてあげたら良い、河原で遊ぶとか環境とかがなくなっているのは確か、NARUTO 総合型さんと子どものプログラムをされたりとかしてますし。今度スポーツ課が出来るので1回、子どものスポーツ少年団と、地域の総合型、もうちょっと年齢下げて認定保育園とかの取組む方、子どもの運動指導できる方々が集まり話できる機会を設けてもらえたら。子どもだけではないが、子どもは大切。子どもの時にスポーツしないと一生やりません。60歳とか介護予防の時になってやると。そうならないように始められる方もいる。少年団の人も少なくなっているということですし対策されては。お話をするテーブルがあればと思います。

K 委員)

小学生のスポーツに関しては、私の所でもかなり色々な小学校回ってやらしてもらっている。放課後の取組として5校回してもらって、木曜日なんか色々なスポーツプログラムを取り入れてやらしてもらっているが、スポーツしている子どもたちがスポーツ少年団に入るよう、クラブで色々な種目を体験してもらって、スポーツ少年団に送り込めたら良いなと取り組んでいるが、現実には多くの子どもさんがスポーツ少年団に行くというのはありません。野球を教える取組で、数名がスポーツ少年団に入りましてやっていますが、新しくスポーツ少年団を作っていくのは難しい。昔は盛んだったので、スポーツ少年団に入って活動していくことが出来ましたが、今は各学校で少子化とかでスポーツ少年団が成り立っていかない現状がありますので、そこを打開できるような何らかの施策を取り入れていただければと思います。もう一つ、幼児期からのスポーツというところで、私の所で取組を行ってきました。今年度4歳から6歳児までのお子さんの5つの園で体力テストを行った結果、全国的な標準に達しているお子さんが、悪い園では年長クラスで29%、良かった園でも60%しか達していません。この子たちが

4月から小学校へあがっていきます。幼児期の運動が不足しているということが、見た目だけでなく数値でもはっきりしたというところで、幼児期から小学校までの遊びを取り入れながらの何らかのスポーツの取組を考えていくと、スポーツに取り組む子たちの参加率が多くなると思います。

松井会長)

青少年スポーツの課題が色々出てきましたが、私の認識ではスポーツ少年団は種目指向が強すぎて、種目によっては駅伝を目指すことをしてないような所も有り、出るのが難しいかもしれないが、総合型地域スポーツクラブの方では限定せず、幅広い適正を見極め発掘するような活動をされていると。今後スポーツ少年団をどのように充実させていくか、種目集中か、全般的な底上げにしていくか、少年団の方で課題としてやっていていただきたい。

私、気になったのは、チャレンジデーについてですが、参加率とか大人を含めた数ですよ。子どものカテゴリーがあるなら、子ども・青少年で入れていいと思うんですが、一般として子ども含めて全体としてであれば、あえてここに読み込まなくて良いのではと。後で同じデータが出てきますので、生かすのであれば、再掲として追記するのか、子どもの方の記載を消すのか、事務局で工夫してもらえたら。

H 委員)

子どもは全員参加ですよ。高校生とか。保育所とか、幼稚園とかも含めて。

E 委員)

29年度の参加率64%の中の、子どもと大人の割合は分からないのですか。

F 委員)

報告したのがデータとして入ってないんですかね。

事務局)

申し訳ありません。今、資料を持ってないのではっきりとした数字は分かりません。また、ご報告をさせていただきます。

(※後日確認市内の保育所(園)、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学からの報告で9,500人ほどであり、29年度64%の参加者約38,000人のうちの25%をしめる。ただし、学校以外からの子ども(未就学児)関係の報告数は除く。)

K 委員)

鳴門の18歳未満は9,000人はいなかったと思います。

E 委員)

子ども・青少年のスポーツ活動の推進にチャレンジデーを入れるかどうかということですか。大人の方が参加が多いんですよね。

松井会長)

そうです。子ども向けにやってる行事ではないということですね。大人も含め全体でやってる行事ですね。ということで、列挙の仕方を検討して欲しい。

8ページ、スポーツボランティアを発掘・育成すると書いていますが、何をもってなのか、事務局の見解を伺いたい。

事務局)

チャレンジデーや総合型地域スポーツクラブのイベント、ジングルベルマラソンの手伝いを通

して一緒にボランティアを育てていていただいていることを指していますが、これについては、まだ、推進出来ていないと考えております。

松井会長)

同じ教育委員会の中で、特別支援教育サポーターですか。登録制度でうちの学生なんかも登録して活動しているように、スポーツボランティアも登録制にして、何人いますかとか数値化して、ボランティアの数を把握するとか、必要なときは登録している個人に連絡して、すぐ参加している仕組みが出来ているのであれば、発掘・育成したといえるのであると思うんですが、いかがですか。

事務局)

そういった制度は出来ておりません。

松井会長)

出来ればそういうのは目指していただきたいと思います。

H 委員)

ここに書かれているのは、NARUTO 総合型さんが車イスバスケットでされてたり、NICE でしているジングルベルマラソンとか、トレイルランニングとかの時に声かけするネットワークであって、個人情報で、個々の大会で持ってますが、いつもいつも来ていただく方が同じです。長寿介護課さんはお手伝いするボランティアのシステムがあるんで、スポーツボランティアの登録制みたいな、県にもあるんですが、鳴門市で活躍しませんかというような、コンパクトな登録制があれば良いと思います。お世話する人参加する人と分けるんじゃないかと、みんなでお世話・スポーツをしようというようにしていけたら。次の計画に盛り込んでいただければ。

松井会長)

最初のところで時間を使ってますが、大事なところなんでしっかりとやって行きたいと思いません。

次に、施策（2）の学齢期の体育活動機会の充実で9ページから11ページで何かご意見ご質問はありませんか。

K 委員)

幼稚園・小学校で体育の授業をサポートさせていただいています。各協会から指導者を派遣して、小学校に器械体操の専門の先生を派遣したり、手の上がった幼稚園に陸上協会から指導者を派遣してもらい教室をしたりしている。3年しております、成果が上がっていると思いますが、学校への体育のサポートというのは、必要だと感じている。

幼児期の運動が不足した中で、小学校に上がっていったお子さんが体育の授業を先生1、2人で対応して、全部の種目を教えるのかということ。やはりスポーツのサポートが必要なんじゃないかと思えます。こういった取組を是非鳴門でやっていただきたいと思います。

C 委員)

小学校の体育活動機会の充実ということで、今実施しているものを充実させると言いますと、体操発表会、水泳能力検定会、陸上記録会と年3つをしています。高学年主体なんですけど、練習時は低学年も一緒にしようと言っています。そういった者の参加状況ですが、練習日程で全部参加となるのは難しい。別の習いごとがあり、運動だけじゃなく、放課後は両立させながらやって、さっきもスポーツ少年団がありましたが、ずっとそれをするというのは、今の子どもの生活状況

からは難しい状況になっています。結構集めるのは条件を柔らかくしないと難しい。練習の時も、さきほどボランティアの話がありましたが、専門的な人が付いていると安全面からも大人数の時に助かると思っています。体力テストをしても結果の 2 極化ははっきりと出ている、動く子は凄い成績の子もいるが、動かない子は動いてない。学校の中の個々を見てみないと、個々に機会を与えないと、そういった所が課題かと思っています。新たな活動を充実するため企画しても、子どもも放課後休日色々やっていて忙しいので、そのあたりどうするかが課題、第九の発表会の練習にしても休みに集まってしても習い事あって難しいという現状があるし、イベントがあっても参加出来ない子どもも多くいます。

松井会長)

学校のサポートといっても、授業に関するサポートと、授業外の課外活動のサポート両方あってもいいと思います。授業に関するサポートで、県は実技指導に関するハツラツサポートという名前で毎年募ってやっていますね。県が一時期やめたことあって、その時は徳島市がやろうと、それで市がやめて県がまた復活して 4, 5 年たつてるとは思います。私も手伝いましたが、県のそういうのを使って学校が指導を仰ぐというのも出来ます。課題と思うのは、全県対象だと 1 回やるだけで、成果は出るだろうが、中々続かない、市でやると身近な人が行くと思いますから、定期的に介入出来る可能性があるのも、市でそういう制度を持ってやっていただくのが一番良いんじゃないかなと。

課外活動に対してサポートしているという実態はありますか。

中・高において教員の働き方改革で負担を減らそうと、外部指導者をとという制度が出来てきていますけど、その実績は鳴門市ではいかがでしょうかね。課外活動を外部指導者に任すという前例ありますか。

事務局)

何校か以前からですね、中学校についても外部指導者ということで、学校長の判断の中で、導入してきたという実績はございます。まだ数は少ないですが。

松井会長)

であれば、実績として載せるべきだと思います。

K 委員)

中学校の部活動に関して何ですが、第一中学校のハンドボール、鳴門中学校の部員は卒業でいなくなりましたが、男子バレーを応援させてもらっている。正式に部活動となっていないが、総体で成績残して、第一中学校のハンドボールについては年数も経っており、部員もそこそこいます。私の方で指導もさせていただいている。学校にも顧問の先生を付けていただいて、試合も出させてもらっている。保険も今年度から学校の保険が活用できるようになりまして、ほとんど部活に近い形になってきております。総合型スポーツクラブで部活の応援が出来ると考えており、市の方でもそれを踏まえそういったことを考えていただけたら。

松井会長)

それに対する指導者の報酬ってどうなっていますか。

K 委員)

クラブ会費は子どもから集めているが、部活となると週 3 回の活動となるが、それに対して指導謝金までは出せないの、アミノバリューホールの使用料とか、週 1 回程度の謝金を指導者

に支払う形で応援させてもらっている。

部活動としてするんですが、クラブの会員にもなってもらって、指導の資質をあげる講習会等の費用も出して今年度も5名ほどに受けてもらいました。指導の資質をあげるために何らかの形でサポートしていかないと、ただ外部指導をして下さいとするだけでは、ちょっと難しいんじゃないかなと思います。

F 委員)

今話を聞いて、すばらしいシステムを利用して学校をサポートしているなと思いました。高校の方でも外部指導者というのもあります。部費でまかなってトレーナーをとく。県に外部指導者で登録していると、指導のお金が出る場合と、出ない場合があって、出来るだけ登録しなさいというのがあって。外部指導者を総合型ですするというのは良いアイデアだと思いますが、試合に行くとなった時、引率できないですね。外部指導者に対して引率できるような、文部科学省の通達で出ていますよね。徳島でも何人か適用されて、そこを上手く組み合わせることで、学校の現場での体育をサポートする体制が出来るんじゃないかなと。学校教員の中でも体育が好きな人が減ってきているという気はします。学校の授業でも外で、一緒に寒い時でも楽しみにやらずに、大人が出て行かないのを見て子どもも出て行かなくなる。その悪循環もあると思う。総合型とかのエネルギーをいただき、子どもに意識を与えていたら、もっと体育が好きになっていくし、我々も資質をあげないといけないというのはあるが、両方上手くいくためには、先ほども出ましたが、色んな立場の人が集まって情報交換をする場が大事だなと思いました。

松井会長)

PTAとか保護者とかがお金を出し合っている外部指導者に頼むという形が従来からあったと思いますが、今は、公的な学校の経費でやると、県ではネオ徳島トップスポーツ指定校、もちろん特別選抜の枠でもあるんですけど、で予算が付くと、そこから外部指導者の経費に充てられると。スポーツ庁がやっているのは公的な経費で外部指導者を雇用するというのがありますので、どんどん推進していただければなと思います。

F 委員)

両方あった方が充実すると思います。

事務局)

スポーツ庁の話で、この間まとまりました、2つありまして、中学校の先生の働き方の問題、子どもたちの生活をどう確保していくのか。来年度から予算化をして指導者を派遣できる仕組みを作って、先生の代わりに引率も出来るような制度、一方子どもたちのスポーツを盛んにしていくのか、一方で子どもたちの生活時間をどう確保していくのかということで、部活の休みをどうするのか。あわせて検討してその中で、指導者の派遣に予算を付けて、各都道府県がどのように活用していくか。我々の所に来るのは先だが、それを踏まえ事前に検討して、来たときにどれに活用するのか。指導員の活用と部活の時間。教育委員会としても来年度に向けて中学校の校長会等先生方と検討していきたいと考えています。

松井会長)

基本目標2のところ、施策(1)スポーツの参加機会の拡充12から15ページのところで青少年の部分と重複するところありますが、何かご意見ご質問ありますか。

H 委員)

NICE も 10 年ほどたち、営利の活動をされている団体と協力するところがあり、そういうところとわたしたちで選択肢が同じ並びとなることもあり、鳴門市ではアミノバリューホールで県の事業でかなり多くの低価格のプログラムがあり、クラブとしてやってきて 2 重のことがあるなど。クラブとしては良いプログラムを提供できるようやっているが、チャレンジデーではプログラム参加が無料で。チラシに入れるのは無料で良いが、お金取るのがあってもいい。全て無料でないといけないというイメージがある、受益者負担の部分も出して良いんじゃないかと思えます。以前から言っていたんですが、今回社交ダンスの団体でお金を取ってキョーエイでやります。チャレンジデーチラシに入れないんだったら良いですと言ってあります。そういうことを周知できたら、チャレンジデーの日にスポーツ活動にチャレンジする人が増えると思います。市外から来ていただいても良いですし、小さなインバウンドですが、淡路島とか県外からの参加者も増えることで、鳴門に行けば色んなスポーツが出来るとみせれば、もっと盛り上がると思います。

J 委員)

カローリング大会をしています。市外からも来ています。呼びかけたら楽しみにしてきていただいています。道具をそろえるのにお金かかる、もう少し安く手に入れば、もっと皆さんに喜んでもらえると思いますが。チャレンジデーでは県外の方も呼びかけたら、もっと一杯参加されると思います。楽しいという評価を得ています。

E 委員)

チャレンジデーは有料にするところはしても良いが、基本無料ですよね。子どもからお年寄りまで誰でも参加できる、社交ダンスとかカローリングとか色々あります。有料なら別でやったらどうでしょうかね。

事務局)

実行委員会のイベントとしてチラシに載せ広報するものは、無料でないといけないですが、それ以外でやっていただければ、参加人数も増えますし可能です。

松井会長)

15、16 ページの施策 (2) 高齢者のスポーツ活動の支援について何かありますか。具体的に参加人数とか数値出せるなら、把握されているなら、具体的になるから出した方が良いでしょう。高齢者については良いですか。次に、17 ページまでの施策 (3) 障がい者のスポーツ活動の支援について何かありますか。

K 委員)

私の所も障がい者スポーツには非常に力を入れておりまして、勤労者体育センターを使いまして障がい者バスケットボール、市営球場を使いまして障がい者の軟式野球を行っております。皆さん障がいをお持ちですが、皆さんスポーツをやりたいという気持ちで来ているので、全て自分の力でやっております。軟式野球は鳴門球場で練習・大会も行っておりますが、障がい者トイレがなく、大会の時は鳴門病院とか量販店にお願いに行き、トイレを使う度に車で行っている現状があり、他の施設についても障害者トイレは充実しておりませんので、大変苦勞しています。障がい者スポーツを推進していくということで、何らかの形で施設についても充実するようお願いしたいと思います。

松井会長)

よろしく申し上げます、他に何かありますか。

事務局)

市営球場のトイレについては、平成10年に現在の場所に移ってから、設置した仮設トイレでするので、プライバシーの問題、老朽化が進んでまして、市議会等でもご意見いただいたんですが、30年度当初の予算化というのは出来なかったんですが、必要だと認識しておりますので、引き続き対応していければと考えております。

松井会長)

テニスコートとかトイレはバリアフリー化しているのですか？施設改修するときには、そういった障がい者に対応した、バリアフリー化していけるようにしてもらえたらと思います。

次に、18ページまでの施策(4)競技スポーツの支援について何かございませんか。

よろしいですか。

次に、19ページ基本目標3市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備の施策(1)スポーツ関連組織への支援、21ページ上までで何かございませんか。

経済的な支援を書いているのですが、記載されている団体の代表の方もここにいらっしゃるようですが、数値とか間違いないでしょうか。もしありましたら、事務局に申し出て下さい。

次に、21ページの施策(2)スポーツ活動における安全の確保について何かございませんか。

ここは参加人数とか具体的に書いてますね。

では、一番最後22ページの施策(3)スポーツ施設の改修・整備の検討について何かございませんか。

I 委員)

市民会館と体育センターはどれくらい進んでるのですか。前の計画の時から、駄目だと言われてたのが数年経ってますがどういう状況になっているのか。

松井会長)

私も同じなんですけど、記述がないんですけど、具体的にどうなっているのですか。検討の内容ですね。差しさのない範囲でお願いします。

事務局)

市民会館、勤労者体育センターについて耐震性能を有していないということで、耐震性能を満たすようにするのか、あるいは新たな施設を検討するのか、今後については鳴門市公共施設等総合管理計画を作っておりますので、それも踏まえて、2施設の一体化も視野に含めた検討を進めるという方向性で考えていきたいと思っております。

松井会長)

改修でも建替でもそうですが、どういう種目でどういう規模、観客がどのくらいで、どのくらいのレベルの大会が開催出来る施設とするか競技規則と照らし合わせて設計していかないといけない。調査費が付かないと検討できないですよ。そこまでいかないで検討したということにならないと思います。最後の1ページが計画の肝の部分でこれがないと上手くいかない。是非頑張ってください。

4月から課になるということで、教育行政だけでなく市全体としてやっていく中で反映してもらえたら。桑島テニスコートの改修でポートルースプレゼンツとはどういった制度なんですか。

事務局)

ボートレース鳴門の収益により実施されるものです。

松井会長)

ボートレースの支援によるものということですが、何故テニスコートなのか。

事務局)

同じ桑島地区ということで、周辺対策という面も含まれています。

松井会長)

色々な条件はあると思うんですが、例えば笹川財団が調査してくれた、推進計画の44ページになるんですが、鳴門市の成人男性・女性のやりたいスポーツっていうのが出てくるんですが、テニスはない。女性の14位でソフトテニスは出てくるんですが、鳴門市に県と市と施設はあるけど需要がないと。需要があるのは、これを見ると男性は筋トレ、水泳、卓球、施設が必要なやつですね。女性だと卓球、水泳。需要があって鳴門市に施設がないところから手を付けるのが順番じゃないかなと。テニス場から先に行ったのは色々な条件はあると思うんですが、残念かなと。

事務局)

桑島のテニス場につきましては、非常に活用率は高く、昔は第二中学校にテニスコートがあったんですが、今現在ございません。中学生が練習出来ているというのがあります。練習に来てないときは、成人の方が使用されているということで、ほぼ毎日使用はされています。ボートレースがリニューアルされまして、その中で、鳴門市のランドマークという位置づけをしており、プレイゾーンということで、ボートレース鳴門の敷地の中で市民が気軽に色々なスポーツを出来る場所を提供しようという取組が進められています。桑島は昔からボートレースが行われている地元ということもあり、テニスコートをボートレースプレゼンツということで工事をさせていただいたということです。

松井会長)

学校スポーツも含めてということですね。

F 委員)

全国大会に出場した時とかは、鳴門市の方から激励金とか応援をさせていただいております。この中で市の施設だけとなっておりますが、渦潮高校の施設もありますので、一部、頼みに来てくれて総合型に使っていただいたりしている。一度に来た場合使えるとは言えないが、調整しながら。施設は県費、皆さんの税金で作っていただいた施設なので空いているところは有効に使っていただきたい。ホールとか柔剣道場とか体育館も2つある。大きい大会の強化練習とかを優先はさせていただくが、いつも土日使っているわけではないので、調整しながら是非有効に使っていただければと思います。

海部とか那賀高校は県立だが市町村と密接な関係あります。渦潮高校でも県立の寮が出来ており、遠隔地の子が来て市の施設を使ったりしている。子どもが一杯来ることが、地域活性・創生につながっているところも有ります。海部とかでは単独寮に市町村から支援が出ている。外向きにも市では寮費の支援が出ていると、県と市がタイアップしてスポーツ振興していると訴えていこうと思いますが、単独寮の有効な活用の仕方を考え両方がウィンウィンとなるのが良いと思うので、単独寮についても一考してもらえたらと思います。

松井会長)

渦潮高校も地域密着・地域貢献ということで、
他にございませんか。

H 委員)

スポーツコミSSION的な考え方ですね。今後は、行政だけではスポーツ活動の補完は難しい。実行委員会が立ち上がったら、そこにスポンサーがついて、市内でスポーツする時に色んなスポンサーさんが、大きな額じゃないですが、地元の企業さんがついて、観光、宿泊が伴う場合は、支援をいただいて、大会資金にあてるとか色んなやり方がある。日本では埼玉県ですかね、取り組んでいる。今後はスポーツコミSSION的な考え方も取り入れていただければなど。この前渦潮高校さんをお借りして、指導者要請のスキルアップ講座をしたんですが、スポーツは競技種目だけでなく、ダンスとかエクササイズもスポーツの一つだと思いますので、大きな括りとしてサーフィンとか山登りとかも含め計画に入れていってもらえたらと思います。

松井会長)

ありがとうございました。ほかにご意見等ありませんでしょうか。

長時間ありがとうございました。それでは、これで、議題（１）鳴門市スポーツ推進計画実施状況についての審議を終わります。次に、（２）のその他について、何かご意見ご質問ございますか。無いようでしたら、本日予定しておりました議題は以上で終了となります。

長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。本日は、これで終了いたします。